

KPECnews

Vol.54

2011.5.1

K i t a k y u s h u P r o s p e r i t y E n r i c h m e n t C o u n c i l

c o n t e n t s

- 01-04 公益財団法人 北九州活性化協議会
第5回理事会・評議員会報告
- 05-06 第67回 ABLEサロン 講演要旨
- 07 “北九州地域産業人材育成事業”が始動
義務教育支援委員会の活動
- 08 もったいない総研の活動
「KPEC夢のかけ橋寄金」の活動
「北九州市ふるさとかるた」のご紹介
- 09 「PPP(公民連携)フォーラム北九州」開催
ふくおか地域づくりフォーラム
講演会のお知らせ



公益財団法人 北九州活性化協議会

北九州地域産業人材育成フォーラム インセンティブセミナー

ー この街の「ものづくりの力＝心と技と知識」を
この国の未来を支える若者に伝えたい ー



経済のグローバル化の進展により国際競争が激化する中で、ものづくり中心の産業構造を持つ北九州市においては、産業基盤の維持・強化が重要な課題となっている。そのため、地域の中堅・中小企業の経営革新、技術革新を担う人材の育成・確保が強く求められている。しかし、企業単独でイノベーションを担う人材の育成・確保が難しくなっており、産学官が連携し地元企業に必要な人材の育成・確保の推進が求められる。

そこで、北九州産業人材育成フォーラムを組織し、事業を推進するにあたり、産業界の課題と大学の最新の知識を共有する交流の場として「北九州産業人材育成フォーラムインセンティブセミナー」を開催した。

■ 平成23年3月23日（水）アジア太平洋インポートマート（AIMビル）8階 KTI大ホールにて開催

■ 基調講演：国立大学法人九州工業大学 学長 松永 守央
テーマ 産学連携による北九州の域力向上について





公益財団法人 北九州活性化協議会 第5回理事会・評議員会報告

第5回理事会・評議員会が、平成23年3月7日（月）、北九州市立商工貿易会館において開催され、平成23年度事業計画および役員選任などの議題が承認されましたので、概要を報告いたします。

第1号議案 平成23年度事業計画〈公共目的事業〉

1. 持続可能な環境への取り組み

「もったいない総研」は、北九州活性化協議会の設立10周年記念事業として立ち上げたものであり、世界の環境首都を目指す北九州においてリーディングコアとなることを目指した活動を行う。また、北九州市が策定した「環境モデル都市」行動計画に対して協働と支援を行う。

1-1 もったいないスクール2011

「もったいない総研」は、2005年度より、子供たちを対象とした環境教育に取り組んでいる。(社)北九州青年会議所と協働で、今年度は「eーキャンプ」を実施する。

【事業概要】

○目的

子供の環境意識、知識向上を図るとともに、体験を通じて低炭素社会の実現のため実生活での実践を促進する。

○内容

夏休みに親子でキャンプを行い、地元の農産物を使った料理を作り、その過程で出た廃材料を他の食材に活用する。また使用済みの箸や皿を利用して遊び道具を作り、リサイクルの楽しみを実感させる。さらに環境に関するクイズ等を通じて環境知識を高める。

1-2 もったいない精神(こころ)の普及

“もったいない精神(こころ)”提唱の先駆者として、様々な視点から調査・研究を行い、市民一人ひとりが環境意識を高めて低炭素社会を作り出していくよう、生活にフィットした活動を展開し“もったいない精神(こころ)”の醸成を図る。

(1) 環境「もったいない」作文の募集

北九州市PTA協議会と共催し、市内全域の小学校、中学校から環境をテーマとした作文を募集し優秀作品を表彰する(小学5年生、中学2年生を対象)。今年度で4回目となる。

【スケジュール(予定)】

- 募集 平成23年12月
- 応募締切 平成24年1月初め
- 表彰式 平成24年3月

(2) 「ブラックイルミネーション&キャンドルecoナイト」

環境省が呼び掛けている『CO2削減/ライトダウンキャンペーン』および、民間団体が主催する『100万人のキャンドルナイト』の趣旨に賛同し、照明を消して、キャンドルの灯りを中心に、家族・友人が集い、地球環境・愛・思いやりなどについて語り合うきっかけを作る。

- 実施時期 冬至の頃

(3) 食と農のプロジェクト

地元の食材を積極的に楽しみ、親しみ、環境に貢献しながら地元食文化を受け継いでいく。また、子どもたちの食育を進め、北九州の「食」と「農」の向上を図っていく。

○主催イベント

講演会、セミナー、交流会など(年2～3回)

○支援プロジェクト

有機農法で農産物を栽培する農園や、ショップ、レストラン等を発掘し、これらの情報を北九州活性化協議会「もったいない総研」のホームページに掲載して周知する。

(4) 年長者研修大学校での講演

北九州市立年長者研修大学校(周望学舎、穴生学舎)からの要請に基づき、「暮らしと環境」講座において、もったいない総研の活動紹介とあわせて、KPECが企画・開発したりサイクルトイレットペーパー「えこっパー」のPRを行う。

(5) リサイクルトイレットペーパーを通じた環境教育

リサイクルトイレットペーパー「えこっパー」の製造メーカーから売り上げに応じて頂いた寄付金を全額、北九州市PTA協議会に寄付し、子供たちの環境教育に役立てる。

また、大半が焼却処分されている学校給食の牛乳パックを「えこっパー」の原料として活用する方法を関係機関と連携して検討し牛乳パックのリサイクルを促進する。

1-3 もったいない塾の開催

市民や企業の意識啓発と「世界の環境首都・北九州」の機運作りを目指して、もったいない塾を開催する。

(1) 「ラジオもったいない塾」

北九州シティ FMの環境番組「エココロWind」にて、「ラジオもったいない塾」として、もったいない総研の活動などを紹介する(月1回)。

(2) 環境に関する講演会の開催

環境について考える機会を市民へ提供する。

1-4 広報活動

もったいない総研の活動を、「もったいない総研」のホームページや冊子で情報発信し、市民意識の向上を図る。

(1) 「もったいないすたいる」の発行

(年1回、平成24年3月)

(2) ホームページの更新

2. 北九州におけるイノベーションと産学連携

経済のグローバル化の進展による国際競争の激化の中で、競争力ある企業、成長力ある産業、活力ある地域を目指して、北九州地域が持続的な発展を続けていくためには地域中堅・中小企業の経営力強化とイノベーション力向上のための環境づくりが求められている。

これを踏まえて、平成23年度は産学官民の協働による推進組織を設置して、北九州市、九州工業大学及び北九州市立大学と協働して「北九州地域産業人材育成事業」に取り組む。

2-1 長期インターンシップ事業

地域製造企業を中心に、九州工業大学及び北九州市立大学環境工学部学生を対象にして、長期インターンシップを実施する。

2-2 学生による地場企業データベースの作成

(1) 学生による北九州地域未来創造型企業魅力発信レポート事業

平成18年から実施してきた「ほくらのハローワーク事業」で蓄積した企業情報と、長期インターンシップ事業で得た企業情報を結合して、企業情報のデータベースを作成し、これを活用できる体制を作る。

2-3 社会人教育プログラムの推進

九州工業大学の社会人プログラムや北九州市立大学のMBAなど社会人向け人材育成プログラムを、体系的に活用する仕組みの検討を行う。

3. 次世代を担う人材の育成

3-1 経済人による義務教育支援活動の推進

平成21年度、22年度にわたり「義務教育支援活動研究会」による調査、研究を行い、その成果として「企業が行う義務教育支援についての研究」報告書を策定し、北九州市長に報告すると共に、北九州市および北九州市教育委員会と協働で事業を推進することを確認した。

平成23年度は、この報告結果を踏まえ、北九州市教育委員会との連携を図りながら、以下の義務教育支援のためのプロジェクトを行なう。

(1) 親学(おやがく)の推進プロジェクト

- 企業従業員を対象にしたPTAへの参加促進企画の開発、実施
- 親としての意識改善、啓発促進企画の開発、実施

(2) 社会(企業)体験学習プロジェクト

- 児童の社会体験、教員の企業体験の機会の提供

(3) 講師派遣プロジェクト

- 児童、教員および学校管理職を対象にした研修への民間講師派遣

(4) 環境づくりプロジェクト

- 教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進企画の開発、実施

3-2 ひまわり塾の開催

まちづくりについての学習、研究、実践を通じて、まちづくりに取り組む機運の醸成、地域経営に関する意識向上、およびヒューマンネットワークの形成することを目的に「ひまわり塾」を継続実施する。

- 主催 (公財)北九州活性化協議会、北九州市
- 体制 名誉塾長:北九州市長 北橋健治
塾長:(公財)北九州活性化協議会理事長 小嶋一碩
事務局:(公財)北九州活性化協議会
北九州市人材育成女性活躍推進課
- 対象 企業人15名程度、北九州市職員15名程度
- 活動概要
塾生が希望するテーマ別にグループ分けし、まちづくりに関する研究・企画・実践を行い、その成果を企画報告書にまとめ、企業・市の関係者を招いて発表会を開催する。
- スケジュール(平成23年7月から平成24年6月の1年間)
○開講式(平成23年7月) ○閉講式(平成24年7月)

4. 北九州の都市格向上への取り組み

4-1 「KPEC夢のかけ橋寄金」事業の実施

平成21年度より「北九州ひとづくり寄金研究会」を設置し、公益財団法人の環境を活用した「寄金」の設置と、このまちの都市格の向上に資する文化および教育分野への活動資金助成を行なう仕組みづくりと方法について研究を行ってきた。

その研究結果を踏まえ、寄金の名称を「夢のかけ橋寄金」と改め、事業の具体化に向けた取り組みを開始し、平成23年度中を目途に、募金事業及び助成事業の具体化に向けた環境整備を行なう。

(1) 募金事業プロジェクトの運営

- 趣旨を踏まえた募金企画、募金システムの研究、開発調査実施
- 趣旨に賛同する法人・個人・団体を対象とした募金業務の運営

(2) 助成事業プロジェクトの運営

- 趣旨を踏まえた助成企画、助成システムの研究、調査の実施
- 「夢のかけ橋寄金」の助成制度、システムの構築
- 「夢のかけ橋寄金審査委員会」の運営に関する事務管理

4-2 北九州ミュージックプロムナードの支援

「北九州ミュージックプロムナード」は、平成8年にKPECの提唱により開催されたもので、北九州における市民参加交流型音楽フェスティバルとして定着している。「北九州ミュージックプロムナード」実行委員会に参画し運営を支援していく。

4-3 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

市民主導によるビジターズ・インダストリーを推進するための組織である「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働で北九州市への来訪者の増加とにぎわいの創出を推進する。

5. 情報受発信・交流事業

5-1 ABLEサロンの開催

「時代の流れ」を知り、KPECの活動の方向性を探るとともに、会員企業及び地域の活性化に取り組む関係者との交流を促進し、地域の活性化情報の受発信を行うため、通年事業の一つとして「ABLEサロン」を開催する。平成23年度も、時宜を得た話題を取り上げ、会員と情報の共有化を図る。

- 実施内容 講演会、見学会等
- 実施時期 年間3回程度
- 案内者 理事・監事、評議員、賛助会員等…約320人

5-2 情報受発信の強化

(1) KPECニュースの発行

KPECの活動内容、及び北九州市の出来事・トピックス等を掲載した機関誌「KPECニュース」を発行する。

- 発行回数 3回/年
- 発行部数 1000部

(2) ホームページでの情報発信

ホームページを活用して、KPECの活動内容及び関連情報をタイムリーに発信する。今年度はホームページの更新も行う。

5-3 地域おこし研修交流

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の北九州ブロック代表幹事として北九州市域の地域づくり団体との橋渡しし

役を果たすと共に、同協議会主催の「福岡県地域おこし研修・交流会」に参画する。

6.まちづくり推進事業

PPP（公民連携）や「新しい公共」などによって「支え合いと活力のある社会」の実現に向けた取り組みが活発になっている。公益財団法人であるKPECの組織的位置づけを活かし、市民・団体・大学・行政等の連携軸として北九州の街づくりのための環境づくりを行う。

6-1 まちづくり講演会の開催

平成22年度に実施した「まちづくり講演会」を踏まえ、関係組織の連携強化と地域のシンボル事業の開発を目的として、経済団体と協働で「世界に広がる北九州のあすを考える講演会」を開催する。

- 日時 平成23年7月7日（木）午後（90分程度）
- 会場 北九州国際会議場メインホール（予定）
- 講師 新日本製鐵株式会社 会長 三村 明夫 氏

6-2 環境首都づくりのための今後の活動の方向性研究

有識者から意見を聞き、環境首都づくりのための今後の活動の方向性を研究する。

6-3 地域活性化に向けた新しい活動分野の研究

PPP（公民連携）や「新しい公共」などの社会政策の動向を踏まえて、経済団体等と連携した取り組みについて研究を行なう。

平成23年度事業計画〈指定管理者事業〉

1. 北九州イノベーションギャラリー（KIGS）指定管理者事業

1-1 管理運営について

平成23年度も企画展示事業（4回／年開催）を中心として、各種の技術革新講座やフォーラム、工房を使った工作体験など、企業人から高校生や子供が楽しみながらものづくりの楽しさを味わえる講座などを開催し、館の設置目的である人材育成・産業技術の保存継承・技術革新の機会創出を目指して事業を進める。

1-2 事業

(1) 企画展示事業

- 春 『巡回展：カメラの歴史展～古き良き時代から現在まで～／おもしろ写真スタジオ～撮影の楽しさ体感～』
- 夏 『(仮称) 大空への挑戦』
- 秋 『(仮称) プロダクトデザイン展』
- 冬 『(仮称) 日本の歴代ノーベル賞者展』

(2) 調査研究事業

- 自主調査研究
(予定)『北九州イノベーター列伝～近代産業を開いた偉人達』
(予定)『日本の高度成長に貢献したセメント発展史』
- 委託研究
(予定)『北九州の技術革新史の変遷（各業種編・総集編）』
- 共同研究
(予定)『ワイヤーロープの歴史』

(3) 教育普及事業

- イノベーションフォーラム
- 企画展連動講演会他イベント実施（春・夏・秋・冬）
- 技術革新講座（予定）基本テーマ：イノベーションの発想

① 開講記念講演

『ひらめきの発想：～先人の言葉とセレンデブティー』
(明治大学教授 北野 大)

②～⑥回については検討中

- デザイン講座（詳細検討中）
コーディネーター：九州大学教授 森田
- ものづくりの心 講座（工業高校生にものづくりの心の伝承、地場企業の取組み紹介）
- 工房塾（若手技術者や工業高校生を対象に、北九州マイスターの技術を実演、継承を目指す）
- 調査研究報告会（研究成果の報告会の実施）

(4) その他教育普及プログラム

○ワークショップ

① KIGSプロジェクト

(若手技術者らによるチームを作り創造的ものづくりに挑戦する)

② KIGS倶楽部

(市民を対象にものづくりやデザインの実践のコースを実施する)

- イベント（東田サマースクール、イノベーションツアー、子供工作教室、KIGSツアー、産業映像上映会、他）
- 中学校の先生に学ぶ（北九州の中学校の先生が教える理科実験教室）
- SAFnetサマーイベント（3館連携事業の一環として開催）
- 3D塾（CAD・CAM）の指導
- 団体向け講習（企業、学校の要請に対応した事業：修学旅行生・企業研修など）

(5) 映像製作事業

- 岡野バルブ（仮称）世界が認めた安全弁～原子力発電所の高温高压バルブの開発

KPEC役員・委員などの選任

(平成23年3月7日現在)

役員名簿

評議員

(50音順)

役職名	氏 名	企業(団体)の名称及び役職
評議員会長	矢田 俊文	公立大学法人 北九州市立大学 学長
評議員	赤木 博	(社)西日本工業倶楽部 理事・事務局長
評議員	磯部 久治	(社)北九州銀行協会 会長
評議員	江本 幸二	(株)井筒屋 相談役
評議員	大迫 益男	(社)北九州中小企業経営者協会 会長
評議員	武井 紘一	(株)安川電機 取締役副社長
評議員	戸上 勝喜	九州電力(株)北九州支店 執行役員北九州支店長
評議員	高宮 俊諦	福岡経済同友会北九州部会 部会長
評議員	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事
評議員	古川 育史	福岡びびき信用金庫 代表理事会長
評議員	松永 守央	国立大学法人 九州工業大学 学長
評議員	明賀 孝仁	新日本製鐵(株) 執行役員八幡製鐵所長

理 事

役職名	氏 名	企業(団体)の名称及び役職	KPEC事業担当
会 長	西村 韶道	TOTO(株) 顧問	代表理事
理事長	小嶋 一碩	(株)千草 代表取締役社長	代表理事
副理事長	城水 悦子	(株)洋建築計画事務所 代表取締役社長	執行理事
副理事長	中野 文治	(株)ぶんコーポレーション 代表取締役社長	執行理事
専務理事	山崎 脛	(公財)北九州活性化協議会 専務理事	執行理事

理事	荒岡 利文	(株)東洋電機工業所 代表取締役社長	
理事	永田 康浩	(社)北九州青年会議所 理事長	
理事	加来 典晴	(株)加来文機 代表取締役	もったいない総研
理事	久保 祐二	西鉄バス北九州(株) 取締役会長	義務教育支援活動研究会
理事	田中 久也	(社)北九州青年経営者会議 会長	
理事	三隅 佳子	NPO法人北九州サスティナビリティ研究所 理事長	北九州市民まちづくり基金研究会

監事

役職名	氏名	企業(団体)の名称及び役職
監事	岩田 英治	(株)西日本シティ銀行 北九州地区本部副本部長
監事	加藤 敏雄	(株)山口銀行 取締役専務北九州本部長

専門委員会委員名簿

企画委員会

本理事会をもって解散とする。

もったいない総研

任期:平成22年3月10日から、平成24年3月31日まで。

役職	氏名	補職
委員長	加来 典晴	(株)加来文機 代表取締役 KPEC理事
副委員長	古川ひろ美	(有)BOND 代表取締役
委員	横田きみよ	コンセプトビディア 代表
委員	金丸 勝利	(有)感動ファクトリー 代表取締役
委員	重松 亜紀	(株)アイム・ヒアー
委員	辻 瑠璃子	エンシンクボジティブネット 代表
委員	鷹野 秀史	(有)LIFE FACTORY 執行役員 福岡支店長
委員	伊関 良一	室内デザインスタジオ 代表
委員	吉岡 和弘	(株)ガイアの風 代表取締役
委員	井上 龍子	八幡駅前開発(株) 専務取締役
委員	倉光 信子	北九州婦人教育研究会 副会長
委員	デワノカー・パート	北九州市立大学 国際環境工学部 准教授
委員	藤吉 洋子	(有)藤弁給食
委員	伊藤 一義	(有)双葉屋旗店 代表取締役 (北九州市PTA協議会 会長)
委員	松尾 孝治	特定非営利活動法人 北九州青年みらい塾代表理事
委員	西川 敏郎	クロスFM「北九州魂」ディレクター
委員	岡田 知子	西日本工業大学 デザイン学部建築学科 教授
委員	土谷 重幸	九州ヒューマンメディア創造センター 地域ICTプロジェクト推進室 専任主幹研究員
委員	下村 明魅	無添加ハウス 代表
委員	濱田 龍介	ボランティア団体TRUNK 代表責任者
委員	熊本かほる	よみうりFBS文化センター(株) 北九州センター支配人
委員	加来 典崇	(社)北九州青年会議所 副理事長
委員	中西 亨嗣	(社)北九州青年経営者会議
委員	坂上 慎一	(社)北九州青年経営者会議

KPEC産業人材育成委員会

任期:平成23年4月1日から、平成25年3月31日まで。

役職	氏名	補職
委員長	鹿毛 浩之	九州工業大学副学長(産学連携推進センター長) 北九州市成長産業戦略推進協議会座長
委員	近藤 浩	九州工業大学工学部キャリアセンター長
委員	梶原 昭博	北九州市立大学国際環境工学部長
委員	石井 義典	北九州市立大学キャリアセンター就職支援担当部長
委員	城戸 宏史	北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授
委員	佐藤 俊雄	岡野パルプ工業 技術統括 取締役 (産学連携研究会)
委員	清永 誠	戸畑ターレット(株) 代表取締役社長
委員	鶴田 暁	環境テクノス 代表取締役社長
委員	松島 徹	(株)松島機械研究所 代表取締役社長 (産学連携研究会)
委員	小林 仁志	大光炉材(株) 代表取締役副社長

委員	磯永 博文	濱田重工(株) 取締役総務部長
委員	荒岡 利文	(株)東洋電機工業所 代表取締役社長
委員	進藤 政成	三島光産(株) 取締役人事部長
委員	安部 修二	九州経済産業局 産業人材政策課長 (産学連携研究会)
委員	下向 則好	北九州市産業経済局 新産業振興部長
委員	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事
委員	山崎 脛	(公財)北九州活性化協議会 専務理事 (産学連携研究会)
委員	石川 浩	北九州テクノサポート理事 副会長

KPEC義務教育支援委員会

任期:平成22年3月10日から、平成24年3月31日まで。

役職	氏名	補職
委員長	伊藤 豊仁	戸畑図書館 館長
副委員長	新川 忍	(株)シンテック 代表取締役
委員	飯野 一義	(株)ケイ・イー・エス 代表取締役
委員	伊藤 一義	(有)双葉屋旗店 代表取締役 (北九州PTA協議会 会長)
委員	井上 龍子	八幡駅前開発(株) 専務取締役
委員	岡橋 正之	(株)ワシダ 代表取締役社長
委員	小野 春夫	(株)おの 代表取締役社長 ((社)北九州市薬剤師会 会長)
委員	加来 典崇	加来文機(株) 専務取締役
委員	梶田 稔幸	(株)かば田食品 代表取締役社長
委員	川村 一弘	大栄(株) 代表取締役社長
委員	神崎 大	九州車両資材(株) 代表取締役社長
委員	岸川 吉隆	岸川商事(株) 代表取締役
委員	柴田 泰行	北九州空港振興協議会 事務局長
委員	菅原 康夫	菅原ビルディング(株) 代表取締役社長
委員	曾我部駿介	丸西商事(有) 代表取締役社長 (北九州PTA協議会 副会長)
委員	田園 直樹	(株)田園興産 専務取締役
委員	田中 純雄	福屋建設(株) 代表取締役社長
委員	西村 正幸	元小倉北区 区長 義務教育支援活動研究会
委員	羽柴 泰輔	大和興産(株) 代表取締役社長 (北九州PTA協議会 書記)
委員	波多野正信	一宮神社 宮司 義務教育支援活動研究会
委員	福山 岳彦	(株)福山組 代表取締役
委員	松尾 孝治	松尾薬局産業(株) 専務取締役 (北九州私立幼稚園PTA連合会 会長)
委員	松本 豊	濱田重工(株) 代表取締役社長
委員	本山 晴子	(有)コ・リード 代表取締役
委員	吉田 幸正	紫苑タクシー(株) 取締役

KPEC夢のかけ橋寄金委員会

任期:平成23年4月1日から、平成25年3月31日まで。

役職	氏名	補職
委員長	三隅 佳子	NPO法人北九州サスティナビリティ研究会 理事長 KPEC理事 夢のかけ橋研究会
副委員長	木下 彰子	(株)アウルズ 代表取締役社長 (夢のかけ橋研究会)
委員	明 千春	アリコジャパン
委員	泉 優佳理	Ganesha材料&環境Links LLP 代表 (夢のかけ橋研究会)
委員	香川 稔子	福岡家庭裁判所 家事調停員 (夢のかけ橋研究会)
委員	林田 直子	林田興産(株) 専務取締役
委員	廣石 敏文	勝山自動車(株) 専務取締役
委員	藤野 佳子	ZACデザイン事務所 代表
委員	藤野 由香	主婦
委員	古森 健一	(株)インテリアフルモリ 代表取締役
委員	松尾 和典	九州総合会計(株) 代表取締役社長 (夢のかけ橋研究会)
委員	松永 裕己	北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 准教授 (夢のかけ橋研究会)
委員	村上 知子	(株)ジェイリンク 取締役副社長
委員	百合野睦穂	CCA北九州 事務局長
委員	横田きみよ	コンセプトビディア 代表 (夢のかけ橋研究会)



第67回 ABLEサロン 講演要旨



日時 平成23年3月18日（金）

会場 パークサイドビル 9階 会議室

演題 「地域マーケティング発想による 小倉中心市街地のまちづくり」
～小倉地区中心市街地活性化事業について～

講師 北九州市小倉地区中心市街地活性化協議会 タウンマネージャー 吉田 潔 氏

吉田 潔 氏



小倉中心市街地の最新動向

まず始めに小倉中心市街地の消費行動及びそれを形成する最新の動向をご紹介します。

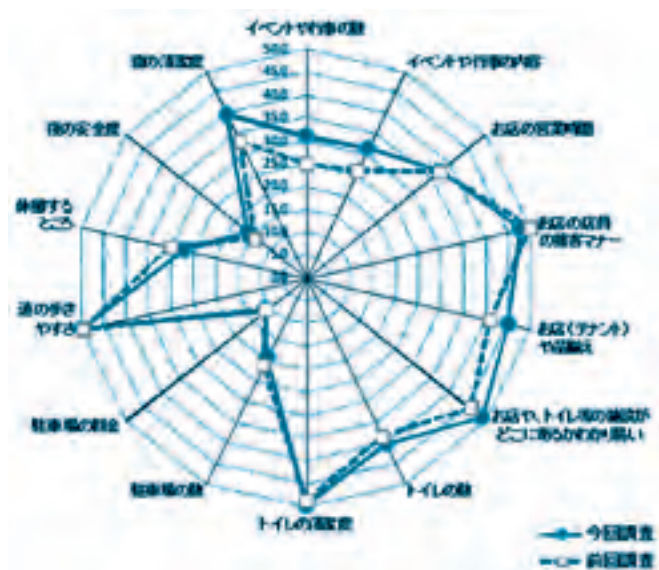
① 小倉都心地区における消費行動

最新の調査結果から小倉都心地区来街者の「小倉都心地区の印象」についての評価（肯定する割合の合計値）をみると図1のようになります。

評価が高いのは「道の歩きやすさ」「トイレの清潔度」「お店や、トイレ等の施設がどこにあるかわかり易い」「お店の店員の接客マナー」です。これらは、肯定的回答の割合が50%ほどで他の項目より高い評価を得ています。ただし、その割合は50%程度であり、8～9割といった圧倒的な評価ではありません。逆に、評価が低いのは「駐車場の料金」「夜の安全度」「駐車場の数」であり、10%台にとどまっています。これは明らかに評価が低いといえます。さらに「休憩するところ」は、否定的回答割合（計46.2%）が肯定的回答割合（30.2%）を上回っています。

前回調査（平成20年3月調査）と比較すると、「休憩するところ」「お店の店員の接客マナー」「駐車場の数」がわずかに前回は下

図1. 小倉都心地区に対する評価（肯定的割合）



資料：「小倉都心地区来街者アンケート調査」
（株）まちづくり応援団、平成22年12月調査）

回ったのみで、他の項目は前回よりも評価が高くなっていますが、来街者に限って言えば全体的に評価が上向いていることを表しているといえます。

以上のような消費者の評価であるために、都心地区に対する施設整備への要望は、図2のように「休憩所」の29.6%をトップに、「レジャー施設」「公衆トイレ」「地下街」「駐車場」「荷物預かり所」「小緑地」となり、休憩所、駐車場等評価の低かった項目が上位に位置づけられています。

休憩所やレジャー施設、公衆トイレ等が消費者のニーズとしてあげられるためか、小倉都心地区来街者がよく利用する施設（立寄り施設）は、図3のように5つの大型商業施設に集中します。これらの施設は、休憩施設、駐車場、快適なトイレ、レジャー施設等を自ら整備しているためだと思われます。中心部の商店街はこれらに次いで利用率が高くなっていますがその割合は10%台にとどまっており、決して高い割合ではありません。

また、以上はあくまでも来街者の意見であることに注意を要します。小倉中心部が広域型商店街であるとはいえ、その商圏内に

図2. 小倉都心地区に欲しい施設

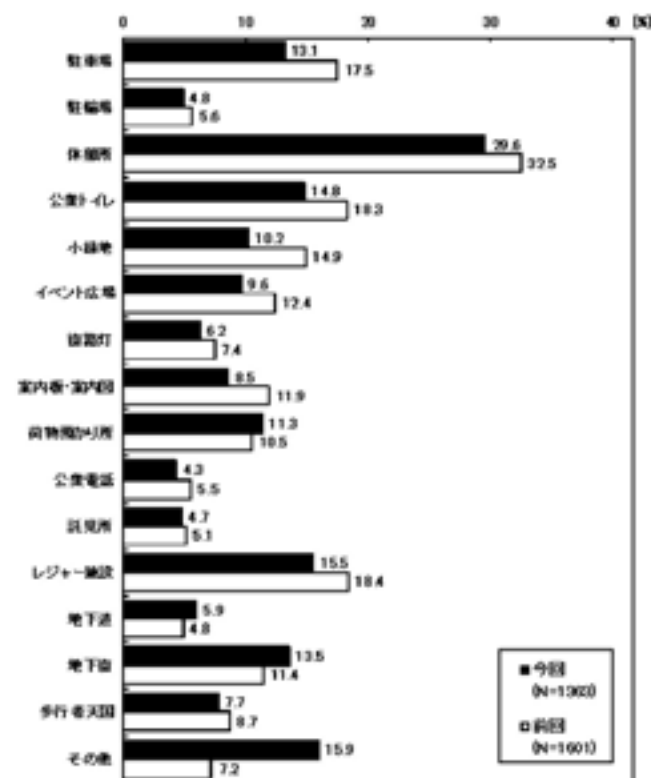
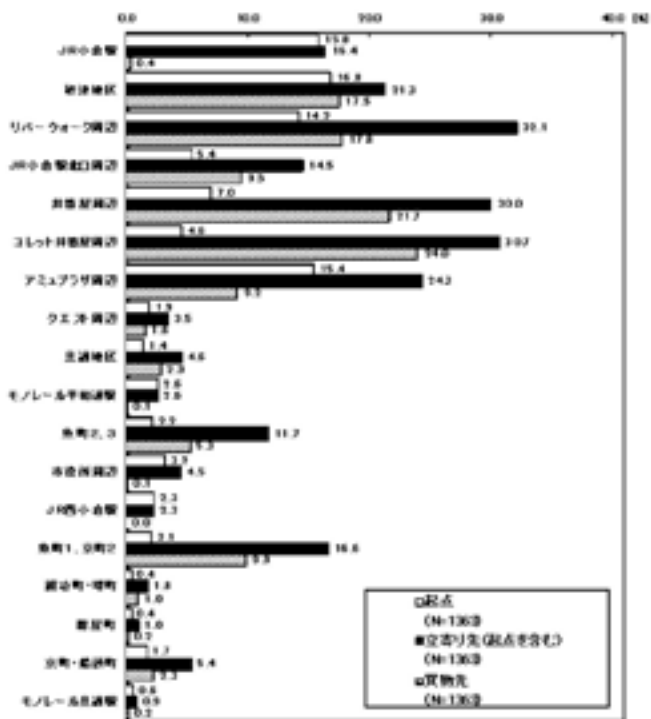


図3. 小倉都心地区での立ち寄り先、買い物先



は小倉中心部への来街頻度の低い層、及びもともと来街しない層が一定程度いることを忘れてはいけません。その層を含めて利用施設を考えると、郊外的大型店が上位にあげられることは間違いないでしょう。そして、それらを含めた都心部商店街の利用率を仮にみると、その割合は一層低下することも間違いないようです。

② 小倉中心部の人口、事業所、小売業の動向

以下、主要な動向を箇条書きにします。

- 人口の伸びは、北九州市全体は06年比1.1%減少であるのに対して、中活地域内は11.3%と伸びが顕著となっている。中活地域内のさらに中心部地域は同6.9%でありこれも伸びている。
- 世帯数の伸びは、人口の伸びを上回っている。特に中心部地域で伸びが大きい。
- 高齢化率は、中心部地域では25.8%と市の22.2%を上回っている。
- 最新の事業所集積を示すタウンページ登録件数は、市全体が06年比13.1%減少であるのに対し、中活地域内では13.5%減とやや減少幅が大きい。
- 小売事業所数は、04年～07年比で中心部地域が16.4%減少と大幅に減少している。中活地域でも11.9%と市全体の9.7%を上回る減少率である。
- 小売従業者数も事業所数と同様の傾向である。
- 小売売場面積は、市全体が8.0%増加しているのに対して、中活地域では12.1%、中心部地域では16.7%の減少となっ

ている。

- 小売年間販売額は、市全体が4.9%減であるが、中活地域は6.3%、中心部地域は7.7%減となっている。

今後の動向

今後注目すべき小倉中心市街地での事業をみておきます。

◆サンロード商店街のアート村構想⇒

若者拠点化、漫画ミュージアムとの連携

サンロード商店街の一角が若者拠点化しようとしています。その名もメルカート3番街。ベンチャー志向のある若者で文化芸術創造のためのクリエイターや商店主のための拠点づくりを行なおうとするものです。これは、後で述べる漫画ミュージアム及びその下層階のポップカルチャータウンとの連動を図ると一層面白いものになると思っています。

◆「(仮称) あるあるCITY小倉」整備事業及び
「ポップタウン小倉」形成事業

小倉駅北口に(仮称)北九州市漫画ミュージアム及びその下層階に「(仮称)あるあるCITY小倉」が2012年4月にもオープンします。これは漫画やアニメ関係の作家を輩出している北九州市にとってうってつけの事業です。この施設は、西日本中からファンを集客する可能性があります。今までみられなかった層が小倉に来るのです。これを商店街が利用しない手はありません。商店街に「明るいオタク」を呼び込むのです。この施設の開業に合わせて2011年度にはプレイベントが開催される予定です。それが「ポップタウン小倉」形成事業です。

既存のイベントとも連携して新しい形のイベントが展開され新たな客層を呼び込むこととなるでしょう。期待は大きいものがあります。

その「(仮称)あるあるCITY小倉」のイメージ図を掲げておきます。楽しいイメージですね。さらに、まだ具体的には言えないのですが、全国をあっと驚かすような施設、仕掛けも考えられています。みなさんお楽しみに。漫画ミュージアム、あるあるCITYで小倉のまちがポップタウンに変身するのではないのでしょうか。



“北九州地域産業人材育成事業” が始動

—北九州地域産業人材育成フォーラムの設置—

北九州の課題の解決に向けて

経済のグローバル化の進展による国際競争が激化し、製造業を中心とした海外移転の動きが活発化する中で、ものづくりのまち北九州市においても、産業基盤の維持・強化が重要な課題となっています。

この課題解決のためには、地場企業、特に中堅・中小企業の人材の強化、育成を中心とした産業人材の育成が必要です。

そして、この産業人材育成は、国際競争を勝ち抜く地域企業の経営力向上と拠点力の強化だけに留まらず、減少する人口問題や高齢化対策としても、若者の定住人口を増やす、都市の大切な活性化策でもあります。

それは、単に大学生のキャリア形成の問題に止まらず、初等・中等教育から社会人に至るまで、各段階、各分野において、地域ぐるみで取り組まなければならない重要な課題なのです。

産学連携研究会の研究が北九州市の産業戦略に！

KPECでは、この課題の解決に向かって「産学連携研究会」を設けて研究を行ってきましたが、産学連携による産業人材育成のための地域システムをつくる必要があるとの結論を得ました。

そこで、今後、競争力ある企業、成長力ある産業、活力ある地域を育てていくために、大学界と産業界、教育界と地域社会が互いに支え合って、産業人材育成とその活用システムの構築を図っていくための地域システムである「北九州地域産業人材育成フォーラム」を設置することとなりました。

この取り組みは、北九州市が進める『産業雇用戦略—新産業成長戦略』の方向とも一致し、平成23年度の重点事業として採択されました。

今後、北九州地域の産業人材育成にかかわるステークホルダーとの合意を形成しながら、中長期的な視点を持って、段階的に企画開発と事業化を推進し、北九州市ならではの「人材が生き生きと学び、活躍できるような産業人材育成・活用システム」の構築を目指して、各種の提案や、事業を実施していきます。

産業人材育成事業は、中堅・中小企業が対象！

北九州地域産業人材育成フォーラムは、産学連携の妙を活かした人材育成を進めます。

- 対象は、中堅・中小企業。
- 企業の具体的なニーズを吸い上げながらメニューの開発を行う。
- 現行のシステムを産学ですり合わせて地域システムにする。
- 産業人材育成を協働進める企業アライアンスを創る。

北九州産業人材育成事業にご参画を

○「長期インターンシップ事業」へのご案内

産業人材育成事業の中核事業である「長期インターンシップ事業」で学生の受入れをお願い致します。

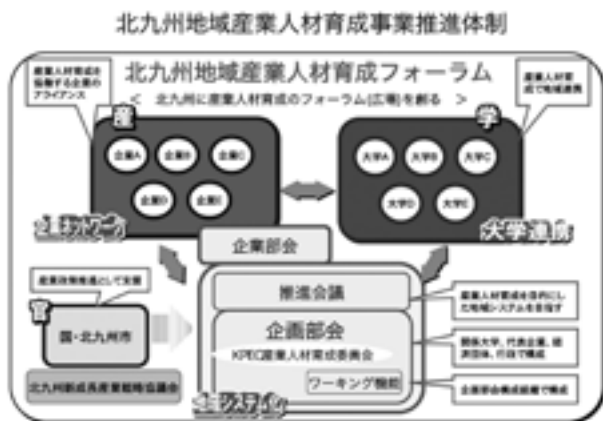
(資料) 北九州産業人材育成事業「internship」

○「企業部会」へのご参画のお願い

「北九州地域産業人材育成フォーラム企業部会」へのご登録をお願い致します。

(資料) 北九州産業人材育成フォーラム企業部会登録

※資料請求は事務局(松尾) まで TEL 541-3122



(事務局 久多良木)

義務教育支援委員会の活動

子どもたちのために、企業ができることを！

3月11日に発生した東日本大震災により多くの人命が失われ、壊滅的な打撃を受けた地域では、生存者にとっても長く辛い日々が続いています。私たちに出来ることは、直接的支援はもちろんですが、この現実を直視し高度に発達した文明社会のあり方を根本から見直し、人間としてのあり方を被災者に思いを馳せながら考えることではないのでしょうか。

さて、菅総理は施政方針演説の中で、今日を「平成の開国」と位置づけ、最小不幸社会の実現を目指す、そしてその実現の担い手として「新しい公共」の推進が欠かせないと言っています。この公共の概念はまだ定まった定義づけをするのは難しく、公共に常識的な市民の考えを反映させると考えたいと思います。その考えからすると

KPECが行った、「義務教育支援についての研究」の結果、具体的な実践の形として、「義務教育支援委員会」の立ち上げは時機に合ったものです。戦後教育は子どもから「謙虚」「潔さ」「誇り」だけでなく生きていくことの不条理への闘いの図太さを奪いました。戦後の民主教育を否定するものではありませんが、生きることの厳しさ、グローバルな世界の中での日本の位置が子どもたちに確かな形で伝わっているのか疑問です。その点企業人は刻々、変化する社会情勢に敏感であり、組織の厳しさも身体に染み付いています。その為、子どもを地域と共に育てる意味でも企業人の支援は必要であり重要であります。私も企業人の知恵と力を借りて、地域や人の教育力向上のために努力する所存です。

(戸畑図書館・館長 伊藤 豊仁)

もったいない総研の活動

環境「もったいない」作文 優秀作品の表彰

未来を担う小・中学生が環境問題への関心を深めて頂くことを目的として環境「もったいない」作文を募集しました。北九州市PTA協議会と共催し、北九州市内の小学5年生、中学2年生を対象として募集をしたところ、小学生494名、中学生157名の応募がありました。

厳選な審査の結果、優秀作品として小・中学生各10点を選出し、2011年1月15日(土)に市立商工貿易会館多目的ホールにて北九州市議会環境建設委員長 河田圭一郎氏、北九州市環境局長 佐藤恵和氏、北九州市教育委員会教育次長 秦勝則氏から表彰して頂きました。

また、KPECが市から指定管理を受けている北九州イノベーション・ギャラリーにて入賞者全員の作文をタペストリーにして展示する他、FM放送番組 (FM KITAQ「エココロWind」) に市長賞を受賞した生徒さんが出演し朗読しました。

さらに小学生入賞者の作文をアナウンサーが朗読したCDを全市の小学校に配布し、昼休みなどに校内へ放送して頂くようにしました。

(事務局 伊藤)



受賞者の皆さん



表彰のようす



北九州イノベーション・ギャラリーでの展示

「KPEC夢のかけ橋寄金」の活動

「北九州ひとづくり寄金“夢のかけ橋”」への想い ～このまちの教育・文化をあなたの手で！～

北九州市をこれまで以上に「住んでみたいまち」「住んでよかったと思われるまち」に育てていきたい!北九州を愛する7人が小嶋理事長、城水副理事長を交えてKPECサロンに集ったのは平成21年4月23日でした。以後、都市の活力や魅力を高めるための研究を重ね、それは「都市力(経済力)」と人を育み、人の心を豊かにする「都市格(都市の品格、教育力、文化力等)」が共に育つことにほかならないという結論に達しました。

日本社会は、今、大きな変革の時を迎えています。かつてのように行政に頼るのではなく、市民自らの手で「都市格」を高める分野を担う人材を育てていく、それが「支え合いと活力あるまち」実現の必須の条件と言えます。

北九州には自主的に教育・文化という「都市格」を高める活動を行っている個人・団体が沢山あります。しかし、財政的に厳しいのが現実です。これらの活動に共感し、共に21世紀のふるさと北九州づくりを支援しよう、活動に参画しよう、と思う方々も沢山いるでしょう。

往年の有名な映画俳優チャップリンは映画の中で「人が生きるために必要なもの、それは、夢と希望とサム マネー」といっていたのを思い出します。夢と希望を育み、その活動を大きく花開かせるには、活動費用の助成が不可欠です。

そこで、公益財団法人北九州活性化協議会だからこそできる「支援したい人と支援を必要とする人」の"かけ橋"になることを考え、平成23年度から「KPEC夢のかけ橋寄金」事業を実施することにしました。思いは伝わる、熱は広がる、を信じています。

日本には寄付の文化がないと言われてきましたが、助け合いの地域社会が長い歴史の中で培われてきたことは事実です。支援すること、寄付することも社会参加であり、社会につながる重要な手段の一つだと思います。都市格向上に向けて、市民の力で「支えあいと活力あるまち」魅力的な21世紀型北九州づくりの輪を広げて行こうではありませんか。多くの方々の参画を心よりお願いいたします。

(NPO法人北九州サステナビリティ研究所 理事長 三隅 佳子)

「北九州市ふるさとかるた」のご紹介

遊びながら、楽しみながら北九州市の魅力や歴史・文化を「学び」「知る」ことができ、併せてまちへの誇りと愛着を育むきっかけにつながる身近なツールとして、「北九州市ふるさとかるた」を製作いたしました。

平成22年度は「普及元年」をテーマに置き、市内小学生を中心に浸透を進めて参りました。活動のひとつ目は、市内小学校、放課後児童クラブ・児童館、市民センター等を対象とした、出張授業・出前講演です。合計32施設・約1,100人の小学生にその魅力を伝えることができました。

活動のふたつ目は、平成23年1月～3月にかけて開催した、「第1回小学生かるた大会」です。合計195 チーム・585名(1チーム3名)の参加をいただき、各区を対象とした予選会を経て、最終決戦は小倉城天守閣を舞台とするなど、本格的なかるた大会を実施いたしました。

「北九州市ふるさとかるた」を通じ、ひとりでも多くの子ども達が、わがまちに誇りを持ち、将来のシティセールスパーソンに育っていつ



て欲しいと願っています。今年度も、さらなる普及活動や新規事業、そして一般販売を進めていく予定ですので、「北九州市ふるさとかるた」を今後ともよろしくお願いいたします。

(北九州市にぎわいづくり懇話会 事務局)

「PPP(公民連携)フォーラム北九州」開催

3月24日に北九州市財政局と北九州活性化協議会が共同で「PPP(公民連携)フォーラム北九州」を開催しました。

PPPは、これまでの行政主体による公共サービスを民間企業や各種団体、NPO等へ委託・移譲し、より有効で効率的なたちで市民へ提供しようというものです。民間事業者の資金やノウハウを活用して社会資本を整備し、公共サービスの充実を進めることも含まれます。

フォーラムでは、PPPの研究で第一人者の東洋大学のサム田淵教授から「日本の都市再生は可能か？ PPP思考で考えられるか？」のテーマで基調講演をして頂き、引き続き、兵庫県加西市、神奈川県藤沢市職員から先進的な取り組み事例の報告がありました。最後に、東洋大学の公民連携専攻研究員による「北九州におけるPPPの可能性」の研究報告が行われました。

サム田淵教授からは、1990年代にアメリカでPPPが拡大した背景や、バルチモア市の都市再生の様子、また現在、1,000件10兆円超のプロジェクトが進行中との説明がありました。また日本において、東京都内に奈良県が学生寮を公費負担無しで建て替えた事例などが紹介され、財政が逼迫している自治体運営やプロジェクト構想へのヒントとなる話題が提供されました。

続いて、加西市で進められている自治体業務の包括民営化や水道事業のコンセッション構想の解説、藤沢市で実施している「公民連携事業化提案制度」の進捗状況や公共施設マネジメント白書の概要が報告されました。

「北九州におけるPPPの可能性」については、北九州空港のPPPによる貨物拠点化、コンセッション機能強化による観光活性化、市内中小企業の活性化につながる連携の考え方や市役所でPPPを推進する組織のあり方などを報告されました。合わせて、神奈川県三浦市で実施されたPPPによる産業再生、財政再建の状況が報告されました。

今後、北九州市ではフォーラムで報告された事例を参考にPPPの検討を進めていくことにしています。

(事務局 伊藤)



ふくおか地域づくりフォーラム

～これからの連携について～

平成23年3月6日(日)、福岡国際会議場において、地域づくりフォーラムが開催されました。

第3回「ふくおか地域づくり活動賞」表彰式では、久留米市の「筑後川まるごと博物館運営委員会」がグランプリ賞を受賞した。北九州地区から、「特定非営利活動法人門司まちづくり21世紀の会」が奨励賞を受賞し、「茶屋の原団地自治区会ふれあい朝市」および「特定非営利活動法人北九州COSMOSクラブ」が活動賞を受賞しました。「特定非営利活動法人門司まちづくり21世紀の会」は関門海峡花火大会、門司港駅前フリーマーケット、門司港レトロカウンタウンなど多くのイベントに取り組んでいます。「茶屋の原団地自治区会ふれあい朝市」は地域の高齢化に伴う買い物難民の防止、ふれあいの場の提供、地域の自助・共助の仕組み作りなどを目的とした「ふれあい朝市」を平成21年度より週1回のペースで開催しています。「特定非営利活動法人北九州COSMOSクラブ」は北九州市における歴史的建造物の保存・活用のため実測・歴史調査、「洞海湾無料連絡船」の運航などに取り組んでいます。

基調講演には、(有)かたくり工房 ガーデンデザイナー 阿部容子氏をお招きし、「活気を生み出す」と題したご講演を行いました。阿

部氏は、2005年に日本初となるPFI方式公園「横須賀ソレイユの丘」を設計、監修するなど、都市公園などのマスタープラン・設計を手がけており、2009年にはテレビ東京系「ガーデニング王決定戦」で優勝しました。近年は、各種雑誌の執筆、花を生かしたまちづくり、植物を活用したセラピー等の他、地域住民、関係団体および自治体などとの連携にも意欲的に取り組んでおり、これら街づくりの体験を紹介されました。

パネルディスカッションでは、「連携」をテーマとしたブロック会議の意見も含め、情報の共有、目標(個性)の明確化、共通利益の存在が連携成功の必要条件であることが示された。

(事務局 久多良木)

講演会のお知らせ

平成23年7月7日(木) 15:30～17:00、北九州国際会議場において、新日本製鐵株式会社会長 三村明夫氏を迎え、北九州まちづくり講演会「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を予定しております。(参加は無料)

詳細が確定しだい、協議会ホームページ(<http://www.kpec.or.jp/>)およびダイレクトメールにて、連絡いたします。



おかげさまで 開港5周年



北九州空港の利用促進と21世紀に
ふさわしい空港づくりを進める

北九州空港振興協議会

TEL. 093-541-1798

<http://www.tobetobekita-q.jp>

とべとべ北Q

検索

平成23年3月16日、北九州空港はおかげ
さまで開港5周年を迎えることができました。
この間、500万人以上の方にご利用いただき
ありがとうございました。

今後ともみなさまに愛される空港を目指しま
すので、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



株式会社日本統計センター創業50周年を記念して **無償提供**

『商圈情報(統計データ)提供サービス』のご案内

**無料で
提供します!!**

【期間】平成23年3月～9月(3月/木～日・祝 PM1:00～6:00 4月以降/変更可能性有り)

【場所】魚町ラボ(北九州市立大学 魚町サテライト)小倉北区魚町3-4-19

魚町サンロード商店街内 ヴィーナスビル1F

*お電話してお越し下さい。Tel: **093-513-8282**(日本統計センター 093-521-3726)

商圈の設定方法が多種多様

任意のポイント(自分のお店)から半径何キロ以内に
設定する一般的な設定のほか、線を自由に引いて領
域を作成することなども可能です。

活用例

- 出店候補地のマーケット状況を知りたい。
- 効果的なポスティングの地域を選定したい。
- 商圈分析の基礎データとして使いたい。



青色の線は徒歩10分圏のエリア

このようなデータを町丁別で提供できます

- 人口
- 年代別人口
- 世帯数
- 住宅所有型態別世帯数
- 昼間人口
- 事業所数・従業者数

推
計
デ
ータ

趣味等の行動別人口 所得ランク別就業者数
科目別消費支出額 貯蓄ランク別世帯数

他多数

カメラの進化展

～古き良き時代から現代まで～



写真の楽しさを体感



おもしろ写真スタジオ



特殊レンズでおもしろ
写真を撮影しよう!



凹凸ミラーで
変形写真を撮影しよう!



トリックアートで不思議な
写真を撮ってみよう!



坂本龍馬と昔の撮影を
体感しよう!

自分のカメラでも撮影できます!



2011. **3/19 SAT** » **6/19 SUN**

会場

北九州イノベーションギャラリー

北九州市八幡東区東田2-2-11 TEL.093-663-5411 <http://www.kigs.jp/>

入場料

大人500円／小人250円
(30名以上の団体は2割引)

休館日

毎週月曜日 (5月2日は開館)
※月曜日が祝日の場合は翌日

開場時間

9:00～19:00 (土日祝、5月2日は17:00まで)
※企画展示室への入場は開場時間の30分前まで

- 主催／北九州市、北九州イノベーションギャラリー
- 後援／北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、JR九州、西鉄バス北九州(株) (順不同)
- 協力／財団法人日本カメラ財団、日本カメラ博物館(カメラの進化展)



KIGS
北九州イノベーションギャラリー
産業技術保存継承センター
KITAKYUSHU INNOVATION GALLERY & STUDIO
指定管理者 公益財団法人 北九州活性化協議会

■(公財)北九州活性化協議会は北九州イノベーションギャラリーの指定管理者として運営管理を行っております。